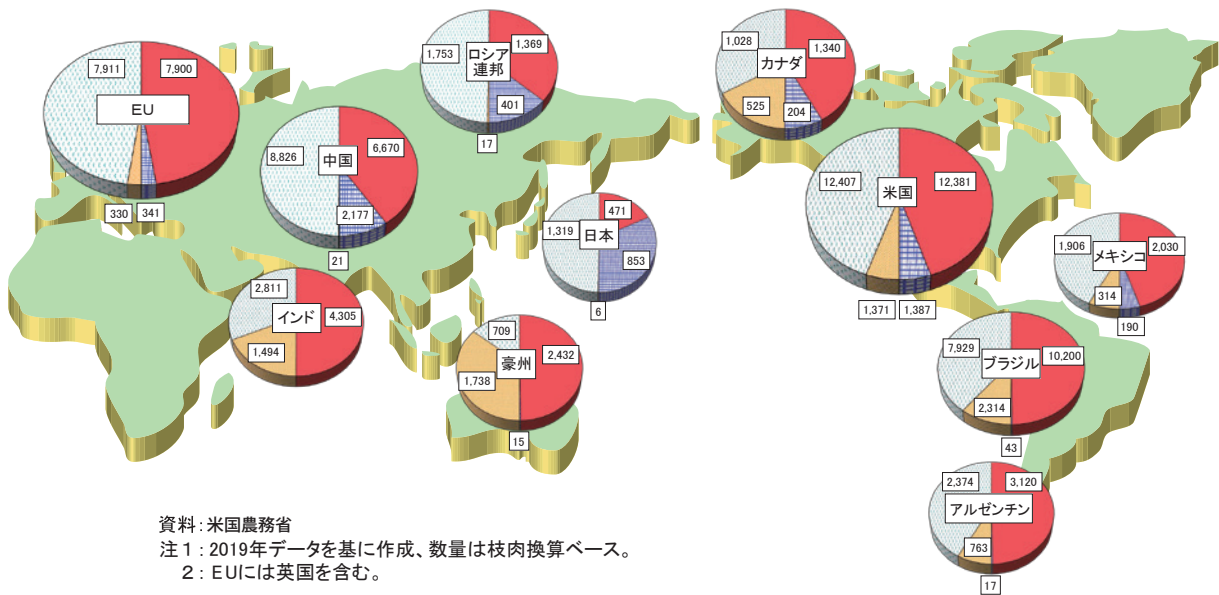


# 絵で見る世界の畜産物需給

## 牛肉



■ 消費量(千トン)    ■ 生産量(千トン)  
■ 輸出量(千トン)    ■ 輸入量(千トン)



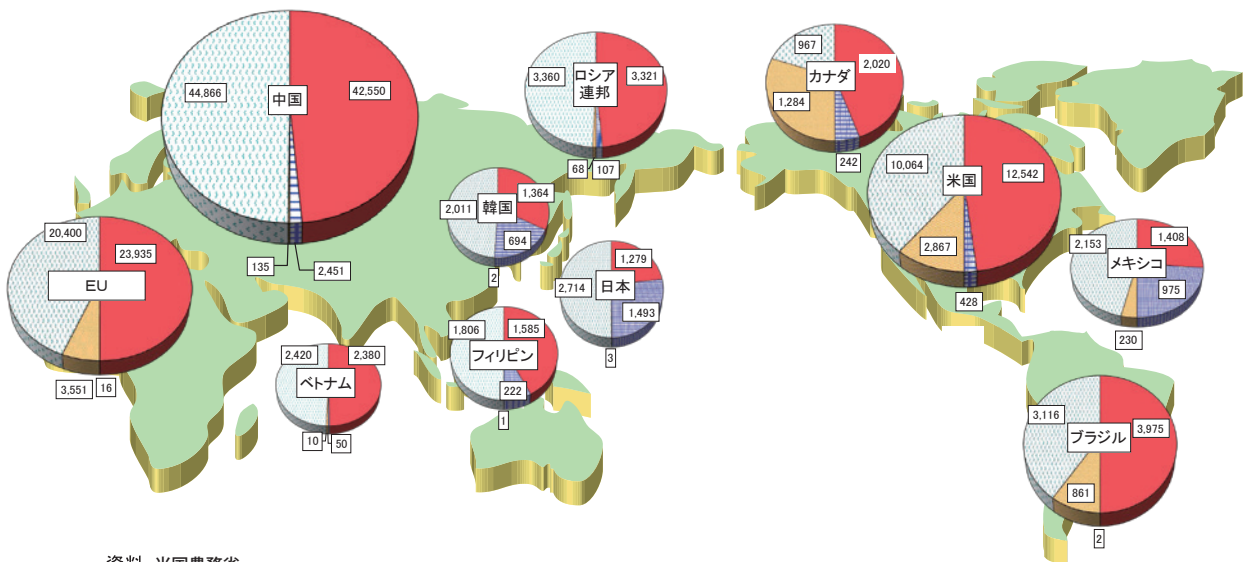
資料: 米国農務省  
 注1: 2019年データを基に作成、数量は枝肉換算ベース。  
 2: EUには英国を含む。

2019年の世界の牛肉生産量は、7261万トン（枝肉換算ベース、FAO Food Outlook、2020年6月）と見込まれる。主要生産国（国別データは米国農務省）は、米国（1238万トン）、EU（790万トン）などの先進国のほかに、ブラジル（1020万トン）、中国（667万トン）、インド（431万トン、水牛肉を含む）、アルゼンチン（312万トン）といった新興国である。牛肉消費量は、米国が世界最大の消費国であるが、EU、アルゼンチン、インドなどの国々も生産とともに消費が増加している。牛肉輸出量は、ブラジル（231万トン）、豪州（174万トン）、インド（149万トン）の順に多い。また、日本への輸出割合が高い米国や豪州、ニュージーランド（62万トン）の3カ国で全輸出量の約3割を占める。

## 豚肉



■ 消費量(千トン)    ■ 生産量(千トン)  
■ 輸出量(千トン)    ■ 輸入量(千トン)



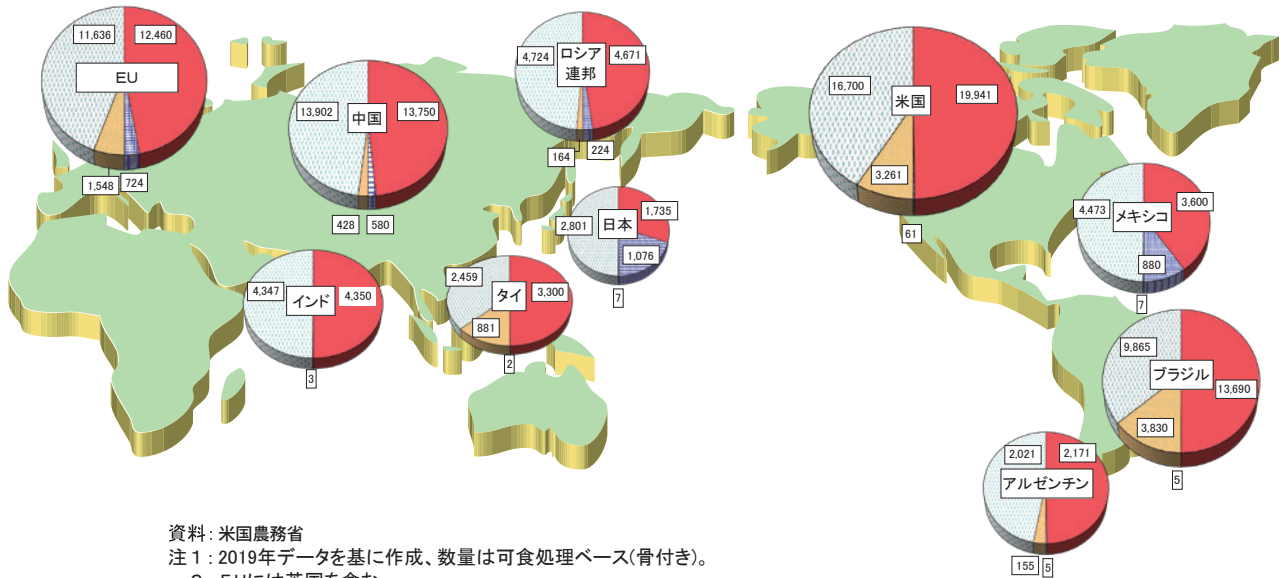
資料: 米国農務省  
 注1: 2019年データを基に作成、数量は枝肉換算ベース。  
 2: EUには英国を含む。

2019年の世界の豚肉生産量は、1億979万トン（枝肉換算ベース、FAO Food Outlook、2020年6月）と見込まれる。主要生産国（国別データは米国農務省）は、中国（4255万トン）であり、これにEU（2394万トン）や米国（1254万トン）などが続く。EUや米国は生産量に占める輸出量の割合が高く、東アジアを中心に輸出量を増加させている。その他の国では、経済成長に伴いブラジル（398万トン）、ロシア（332万トン）、メキシコ（141万トン）の生産量が増加している。中国以外のアジア地域では、ベトナム、フィリピン、韓国などの生産量や消費量が多い。日本は生産量が128万トンであるが、消費量のおよそ半分の149万トンを入力しており、世界全体の輸入量の約2割を占めている。

# 鶏 肉



■ 消費量(千トン)
 ■ 生産量(千トン)
 ■ 輸出量(千トン)
 ■ 輸入量(千トン)



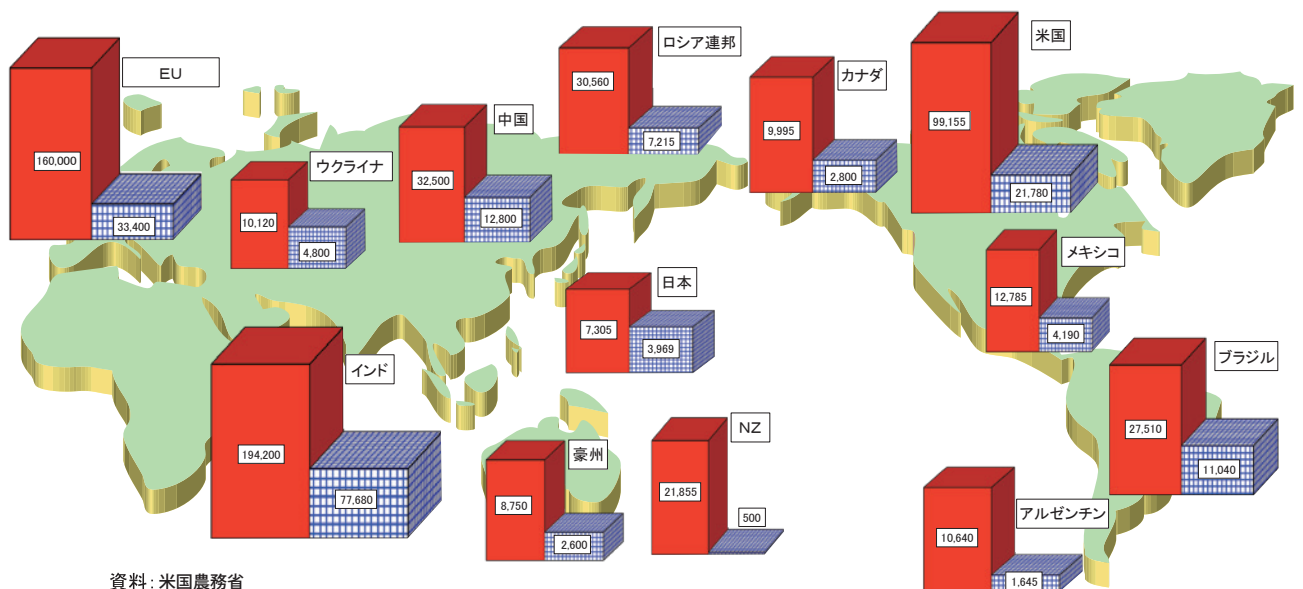
資料：米国農務省  
 注1：2019年データを基に作成、数量は可食処理ベース(骨付き)。  
 2：EUには英国を含む。

2019年の世界の鶏肉生産量は、1億3358万トン（骨付き換算ベース、FAO Food Outlook、2020年6月）と見込まれる。主要生産国（国別データは米国農務省）は、米国（1994万トン）であり、これにブラジル（1369万トン）、中国（1375万トン）と続く。このほか、EU（1246万トン）、タイ（330万トン）、メキシコ（360万トン）などで増加している。鶏肉消費量は、米国が最大であり、中国（139万トン）、ブラジル（987万トン）なども増加している。鶏肉輸出量は、ブラジル（383万トン）、米国（326万トン）、EU（155万トン）、タイ（88万トン）の順に多く、ブラジルと米国で世界の輸出量の約6割を占める。

# 生 乳



■ 生乳生産量(千トン)
 ■ 飲用乳消費量(千トン)



資料：米国農務省  
 注1：2019年データを基に作成、数量には水牛乳を含む。  
 2：EUには英国を含む。

2019年の世界の生乳生産量（水牛乳含む）は、8億5184万トン（FAO Food Outlook、2020年6月）と見込まれる。主要生産国（国別データは米国農務省）は、インド（1億9420万トン）、EU（1億6000万トン）、米国（9916万トン）などであるが、インドは水牛乳が生乳生産量の約5割を占める。地域別にみると、最近では、アジアや南米の生乳生産量の増加が著しい。2019年の貿易量（輸出量・生乳換算）は7674万トンと見込まれ、その貿易率は9.0%と穀物や砂糖、牛肉、家きん肉などと比べて低い。主要輸出国（地域）は、EU、ニュージーランド、米国、豪州などである。